

サポートセンター通信

発行日：平成26年11月15日 第54号

第54号



発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp

ぼくらの学校 2014 が開催されました！

「ぼくらの学校」(市民活動フェスタ 2014in 松本) が9月27日、28日の2日間、穏やかな秋晴れのもと「あがたの森」で開催されました。今年は、「きっと見つかる！まなびのアドベンチャー」をテーマに、参加48団体が工夫を凝らした「体験・発見」ブースを企画し、市民の皆さまが市民活動をより身近に感じられる機会となりました。

この市民活動フェスタも今や来場者が3200名を超える「秋のイベント」に成長しました。参加団体の交流から一般集客に大きくシフトするために、試行錯誤を積み重ねてきた実行委員の皆さんの弛まぬ努力に脱帽です。さらに一歩一歩発展し、このフェスタによって市民活動のネットワークが広がっていけばと期待が膨らみます。



開校式 松本養護学校太鼓連まつよう太鼓JOYの威勢の良い和太鼓演奏でスタートしました。



子どもわくわくひろば 飛び出す人形づくりのようす。今年も体験コーナーは親子連れで賑わいました。



平和・いのち パレスチナの写真展や原発問題の資料展示。命の尊さや平和について考えました。



自然環境・エコ 発電機あり、クマの毛皮やホタルの幼虫を観察する装置もあり、理科室のようでした。



インターナショナル 松本一受けた授業「英語でコミュニケーションスキルアップ」の一コマ。



アウトドア 昔ながらの紙芝居屋台も登場！並木通りは販売ブースや野外体験など縁日のようでした。



市民活動スキルアップ講座「助成金申請書の書き方」

社会課題を解決するための事業の実現に向けて、助成金申請に挑戦してみませんか？助成元からアドバイスをいただきます。

- ◆日時：1月17日(土) 11:00~17:00
- ◆会場：市民活動サポートセンター
- ◆講師：荻上健太郎氏/公益財団法人日本財団
- ◆内容：<講義>ウォンツ(願望)とニーズ(必要性)の違い
<実習>事業立案から資金計画まで申請書を作成し模擬審査にて講師が講評をします。



ふれあいサロン クリスマス



障害者就労支援施設のクリスマス商品を中心とした販売会とクリスマスコンサートです。ぜひお出かけください。

- ◆日時：12月11日(木) 10:30~14:00
- ◆会場：松本市市民活動サポートセンター
- ◆内容：午前中は自主製品の販売会
13:00~小松規美子さん(ムジカコンパス所属)と「クリスマスソングを楽しもう！」

🌸 10/3～11/5 (全4回) 傾聴ボランティア養成講座

昨年に続き 2 回目となる傾聴ボランティア養成講座(プラチナサポーターズ松本主催)が開催され、プラチナ世代を中心に 30 人余りが受講しました。長野いのちの電話事務局長の西澤聖長氏を講師に、自己理解と他者理解についてロールプレイを交えて体感し、アサーティブな考え方の重要性を学びました。また、傾聴のお相手には認知症の方も多く、グループホーム代表の八田桂子さんによる認知症理解のための講義もありました。

「すべての内容が新鮮で胸にカルチャーショック」「自分の生き方、こころの中のことまで考えさせられた」「これからの人生の糧となった。良い人間関係をつくっていききたい」との感想にあるように、意識改革の機会でもあったようです。プラチナ世代の支援に開催されているこの講座ですが、傾聴ボランティアとして活動する人にとってはもちろんですが、人生のターニングポイントに欠かせない講座になりました。



🌸 11/11 しみんサロン・観光編

お城のガイドや街中の案内・おもてなし、HPでの情報発信など、松本観光に関する活動をしているグループの交流会がありました。



サポセン登録団体を中心に、観光コンベンション協会や市の関係課の職員の参加もあり、それぞれが持つ情報や課題を出し合い、その連携について考えました。初の顔合わせとあって、最初は肩に力が入っていた参加者でしたが、「ようこそ松本・また来たい街へ 私たちができること」をテーマに、関連するキーワードを 72 挙げるグループワークを通して次第に打ち解けていき、参加者からは「とても面白かった。今日の企画はナイス!」との感想をいただきました。

「商店主とガイドとの情報交換をしたい」など具体的な提案も飛び出し、これからの連携が楽しみです。次回は年明けに集まることを約束し閉会しました。

支える人たち

～はぐルッポ支援員 赤堀 規子さん～

子ども支援・相談スペース はぐルッポ
Tel:090-1122-2670(事務所)
Tel:090-9133-4352(赤堀)

『はぐルッポ』は、不登校の子どもたちを支援することを目的に、平成 25 年 5 月に市が設置した支援・相談スペースである。はぐルッポ支援員であり、キャリアカウンセラーとしてジョブカフェや専門学校などで若者の相談にあたっている赤堀さんにお話を伺った。



- これまでどんな活動をされてきたのですか。
支援員を始めたのは今年の 4 月からですが、以前は若者・ニートの就労支援を 9 年間やっていました。
- 若者と接していて感じることは？
さまざまな理由で社会との関わりを結ばなくなった若者たちと出会い、まずは笑顔になってもらうのが最初の目標っていうくらい、皆さん下を向いていて…。この子には今このステップを提供するのが一番だろうと見極め、提供しなければならぬという難しさはありますが、その分やりがいもあります。
- 若者支援の活動を始めたきっかけはなんですか。
小学生の頃の性的被害体験が原因で、強迫性障害に悩んでいた時期があったんです。関心のあった心理学関係の本を読み漁る中で「自身の体験を通して自分をもっと深く理解すると同時に自分を愛する」ということを学び、それが私にとってとても大切なことだったんですね。自分を愛して幸せに生きるということを私自身も追及しながら、ひとりの人間の存在をまるごと理解する、そのことにお付き合いしたいという思いか

らです。また、人に話すことで気持ちはずごく楽になったという自身の経験も、カウンセリングの原点になっています。

- 活動を通して目指していることを教えてください。
人はひとりでは生きていけないということに、それぞれのタイミングで気づききっかけを与えられたらと思っています。私の体験を開示して、誰かが「自分以外に同じ苦しみを経験した人がいるのだ」と知るだけで、その人の中にポッと小さな灯がともるかなって思うんです。あと、自分を苦しめる体験そのものも、人の役に立つときが来るんだよっていうことを知ってほしいのもあって。助けを求められない、声を上げられない誰かに対する「私がいるから大丈夫」っていうメッセージになったりするんですね。人が自分自身を生きること、そこから社会とつながって生きることを支援できたらいいなと思っています。

やわらかい言葉の中にも、赤堀さんの芯の強さを感じるインタビューでした。(インタビューア: なかがわ)

日本笑い学会信州支部

Tel : 0267-68-6680 (代表 : 田中 高政)

E-mail : tanakat@saku.ac.jp

URL : <http://waraishinshu.com/>

信州支部は、日本笑い学会の「笑いに関する総合的・多角的な研究を行い、笑いの文化的発展に寄与すること」に加え、「地域の活性化及び人々の健康に資する」ことを目的として、平成24年5月に全国17番目の支部として設立された。支部発足に尽力された百瀬副支部長にお話を伺った。

長らく東北支部にて活動していた百瀬さんが松本市にUターンした時、「是非とも信州支部を立ち上げたい」と、笑い学会会員で信州在住の唯一の知り合いだった現会長の田中さんに連絡を取ったところ、またたく間に話は盛り上がり、信州支部の設立の運びとなった。笑うことの大切さを信州に広めようと考えている。「生後10日ぐらいの赤ちゃんも、笑顔になります。これを“天使の微笑”と呼ぶそうです。人間は遺伝子の中に笑いを持っているのだと思います。笑いは心に作用して元気や勇気を与えてくれる。楽しく生きていいのだ、と思わせてくれます。」笑いについて語る百瀬さんの口調は熱い。

現在会員は38名、職業も多岐にわたっているが、落語、

講演する百瀬副支部長 (→)



ラフターヨガ(笑いヨガ)、紙芝居、腹話術等々の技を持ったメンバーが精力的に活動している。「学会の活動外でも会員の人気が高いため、個人的に笑いの講師を頼まれる機会も多く、皆忙しくて。」と、百瀬さんは言う。

年1回の支部総会、ニューズレターの発行、講演会の開催、講師派遣等を行い、現在活動が2年ほど経過した。これからもっと多くの人に会のことを知ってほしいと願っている。お勧めは、1年に数回開校され8回目を数えた笑楽校(しょうがっこう)。笑楽校では、学校の授業になぞらえて、例えば、1限目社会「ケアクラウンについて」、2限目理科「笑い脳科学について」、3限目保健体育「笑いヨガ」とバラエティに富んだ講座を開催している。資料代200円ほどで会員でなくても参加できる。笑えて、楽しく、もちろん深い世界に出会えるのでは。興味のある方は、お問い合わせの上ぜひ足をお運びいただきたい。(さとう)

親子ネットNAGANO

Tel / Fax : 050-3468-3743 (代表 : 堤 則昭)

E-mail : kodomokenri@gmail.com

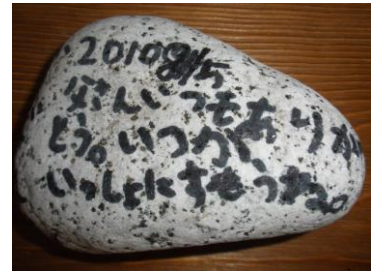
URL : <http://oyakonetnagano.jimbo.com/>

たとえ夫婦が離婚しても、子どもにとって父親と母親に変わりはない。どちらか一方に会えないことが、子どもにとってはどれほど苦痛なことか。両親の離婚によってつらい思いをしている子ども達を少しでも減らしたいと立ち上げた「親子ネットNAGANO」。

今ある相談窓口の多くは、親権を持つ親だけに寄り添う支援になっており、子どもがないがしろにされていると代表は語る。当団体は、その子どもにとっての最善の道を探っていく。そのために、離婚・再婚をした、子どものいる家庭の支援を行う。親への適切なアドバイスを中心に、面会交流や養育費をはじめ、家族関係全般の相談を受けている。

ある日突然、我が子に会えなくなった経験を持つ代表。当初は、自身の我が子に対する思いによる活動だったが、模索しているうちに、一番辛いのは子どもだということに思い至った。離れて暮らす親と面会できている子どもより、会えない子どものほうが、より深刻な問題を抱えてしまうと、代表は感じている。

離れて暮らすお父さんに向けたメッセージ (→)



支援活動は、家庭内の諸事情に触れなくてはならず、スタッフはカウンセリングや傾聴の研修で研鑽を積み、支援に備える。長野県には同様の支援をする団体がないうため、支援を求める相談者のために県内各地に出向いている。スタッフの時間的な負担、また交通費等実費とはいえ相談者の金銭的負担は少なくはない。「会の目的に賛同して、一緒に活動してくれる仲間が多くなれば、救われる子どもが増える。」と堤さんは仲間を募る。

子どもにとって両親と一緒に暮らすことが最善なのかもしれないが、やむなく離婚となっても、両方の親に育てられる環境があれば、子どもの権利は守られるのではないかと。離婚を経験した家庭特有の悩みを抱える方々に、当団体の相談窓口をたずねてほしいと思う。

何が子どもにとって幸せなのか、自分の子は今、幸せに感じているだろうか、今回、改めて自身の家庭を顧み、すべての子どもに幸せを感じてほしいと願う。(こばやし)

INFORMATION : お申込み・お問合せは各団体に直接お願い致します。



イベント・募集情報をお寄せください。

サポートセンター通信やホームページで、市民活動のイベント情報や募集情報などをご紹介します。



アースデイまつもと2014 アルウィンピクニックフェス

フリーマーケット、多民族フード村、野外音楽ステージ、ワークショップなどがあります。

- ◆日時：11月22日(土) 10:00~15:00
- ◆会場：サッカースタジアム「アルウィン」
- ◆入場料：無料
- ◆問合せ：アースデイまつもと実行委員会
TEL:090-1854-5305 (立石)



第5回 長野県不登校を考える県民のつどい

不登校をしている(していた)本人や不登校の子を持つ親や家族が主役のつどいです。

- ◆日時：11月24日(月・振替休)
- ◆会場：伊那市生涯学習センター
- ◆参加費：500円(18歳以下無料)
- ◆主催：ながの不登校を考える県民の会
- ◆事務局：上伊那子どもサポートセンター
E-mail:kodomosupportkamiina@sunny.ocn.ne.jp FAX:0265-94-2064
- ◆問合せ：TEL:0265-76-7627 (トエダ)



第1回 若者・生活困窮者就労支援からソーシャルビジネスを考えるシンポジウム

基調講演「先進実践地韓国における社会的企業の現状」とパネルディスカッションがあります。

- ◆日時：11月30日(日) 13:30~
- ◆会場：松本大学 5号館 2F 524教室
- ◆講師：姜 乃榮(カン・ネヨン)氏
(慶熙大学公共大学院講師)
- ◆参加費：無料
- ◆問合せ：事務局 TEL:0263-39-7444
NPO 法人ワーカーズコープ信州エリア



サンタ・プロジェクト・まつもと 2014 あなたもサンタクロースになりませんか?



- ◆クリスマスを自宅で過ごすことができない子どもたちに「本のプレゼント」を贈りませんか。
- ◆参加方法：病院でクリスマスを過ごす子どもへ本を購入し、メッセージカードを記入。
- ◆購入期間：12月5日(金)~14日(日)
- ◆購入場所：ちいさいおうち書店、TSUTAYA 北松本店、平安堂あづみ野店、宮脇書店松本店、リブロ松本店
- ◆呼びかけ：サンタ・プロジェクト・まつもと
(代表 西垣恭子)
- ◆事務局：NPO 法人ライフデザインセンター
TEL/FAX:0263-46-2020



犯罪被害者支援講演会 2014

性犯罪被害当事者の会メンバーの講演『傷と共に生きること~私が“わたし”である為に~』のほか、オカリナグループによる演奏もあります。

- ◆日時：11月25日(火) 開場 13:00 開演 13:20
- ◆会場：松本市中央公民館 Mウィング 6F
- ◆講師：工藤 千恵氏(性犯罪被害当事者の会「サバイバルサロンふれげんと」メンバー)
- ◆参加費：無料
- ◆主催：認定 NPO 法人長野犯罪被害者支援センター
TEL:026-233-7848 FAX:026-233-7847

松本市避難者交流事業

子育て支援フェスタ 2014 ~子育ての和・話・笑の輪~

子育て支援団体や企業のブース出展&飲食コーナー、各種クラフト体験コーナーがあります。

- ◆日時：11月26日(水) 10:00~14:00
- ◆会場：カタクラモール 1階フェスティバルコート、3階カタクラホール
- ◆入場料：1F 無料 3F 500円※一部材料費負担
- ◆申込み：不要
- ◆問合せ：同窓サークル TEL:080-8919-1818

平成 27 年度「地域発 元気づくり支援金」説明会

地域づくりを实践する活動のための資金として関心の高い「地域発元気づくり支援金」の説明会です。

- ◆日時：12月17日(水) 13:30~15:30
- ◆会場：松本合同庁舎 2F 講堂
- ◆参加費：無料
- ◆問合せ：松本地方事務所 地域政策課 企画振興係
TEL:0263-40-1902



編集後記

松本城に秋の彩を添えていた紅葉が地面を覆いはじめ、今年もまた冬の足音が近づいてきました。キリッと冷えた空気に、年末に向け気持ちも引き締まる思いです。今年もサポセン通信を手にとっていただきありがとうございました。(なかがわ)